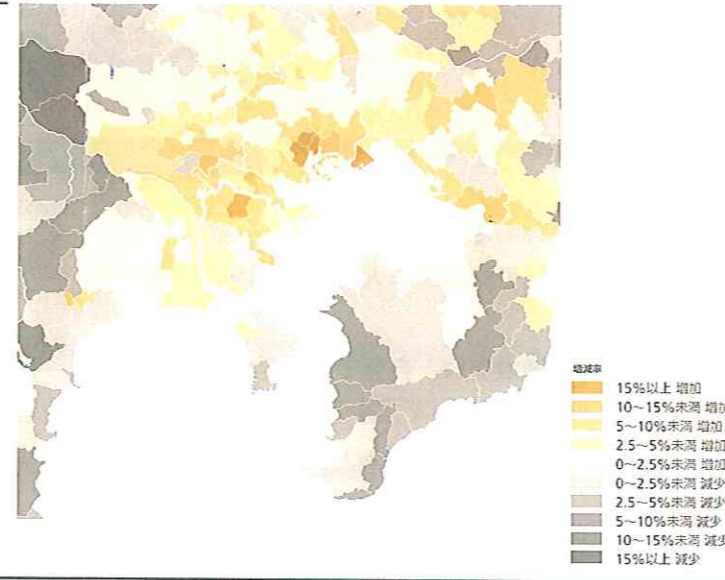


人口

- ・首都圏全体では、人口増加傾向が見られるが、市内では、南部地域を中心に人口が減少傾向
- ・都心区（中、西、南）は減少から増加に転じ、北部は人口増加が継続傾向
- ・青葉区の人口は、一貫して自然増加が進むが、2008年には社会減少に転じている
- ・今後、青葉区では、高齢化が進行し、若年層の流出が顕著な地域が増加する可能性がある

首都圏の人口増減

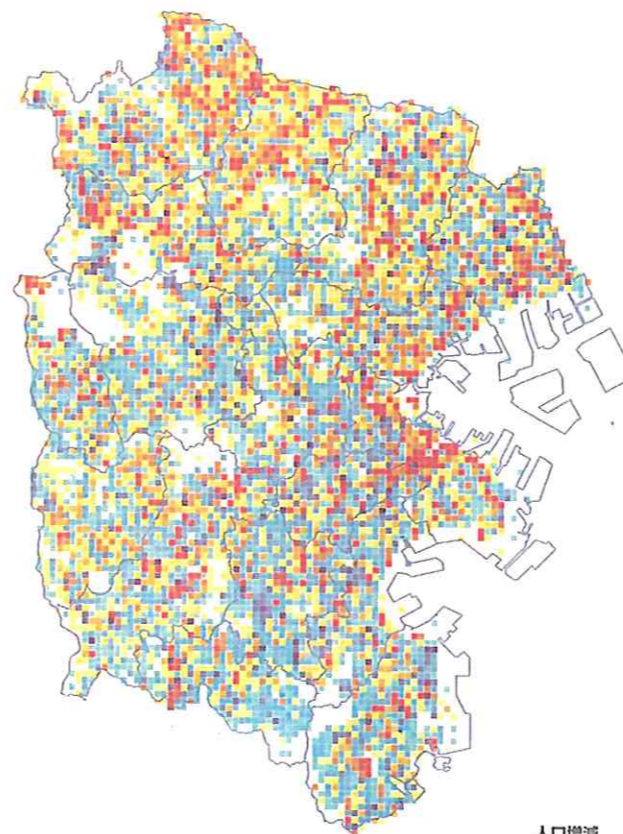
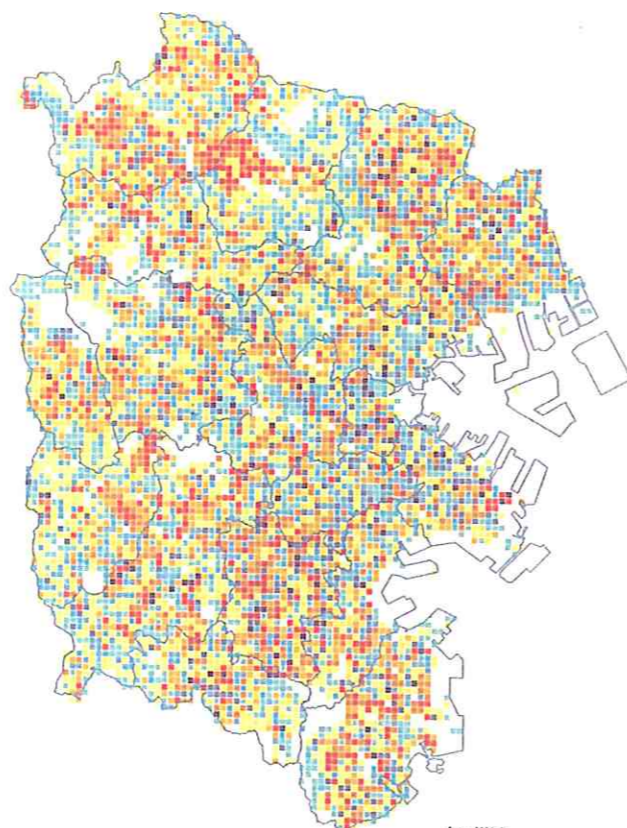
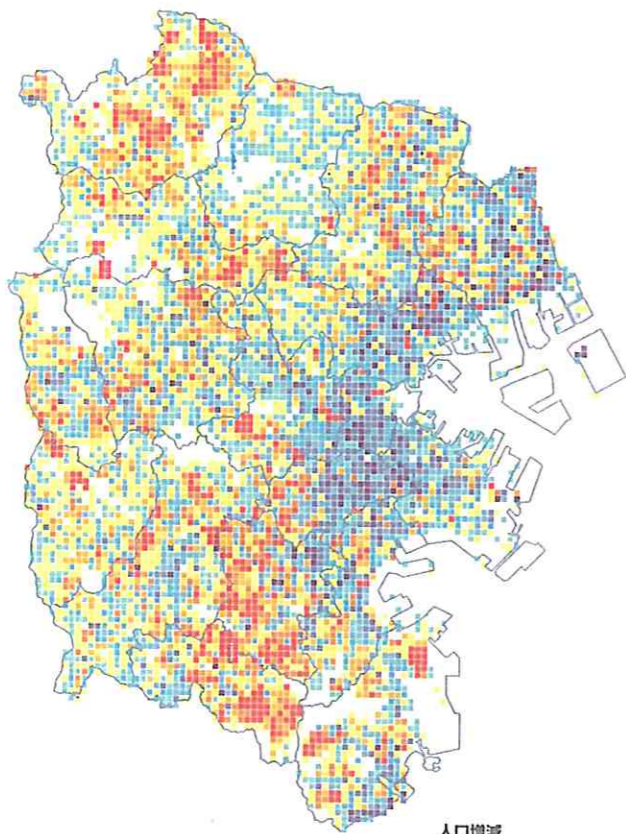


人口増減 (250mメッシュ)

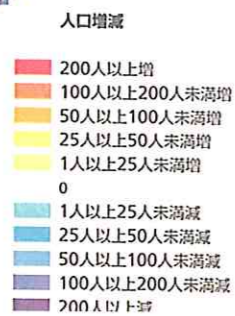
1975年 [昭和50年] ~ 1980年 [同55年]

1985年 [昭和60年] ~ 1990年 [平成2年]

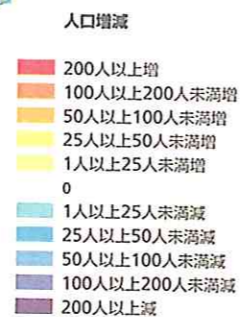
2000年 [平成12年] ~ 2005年 [同17年]



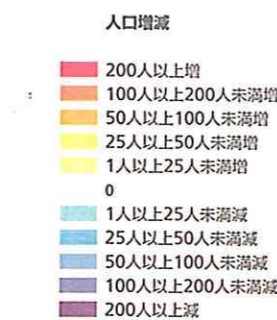
1980年人口 2,773,674人
[1975年と比べ15.2万人増]



1990年人口 3,320,331人
[1985年と比べ22.7万人増]



2005年人口 3,579,628人
[2000年と比べ15.3万人増]



資料：国勢調査

高齢化と若年層の流出

図4-23 | 自然増減率、社会増減率

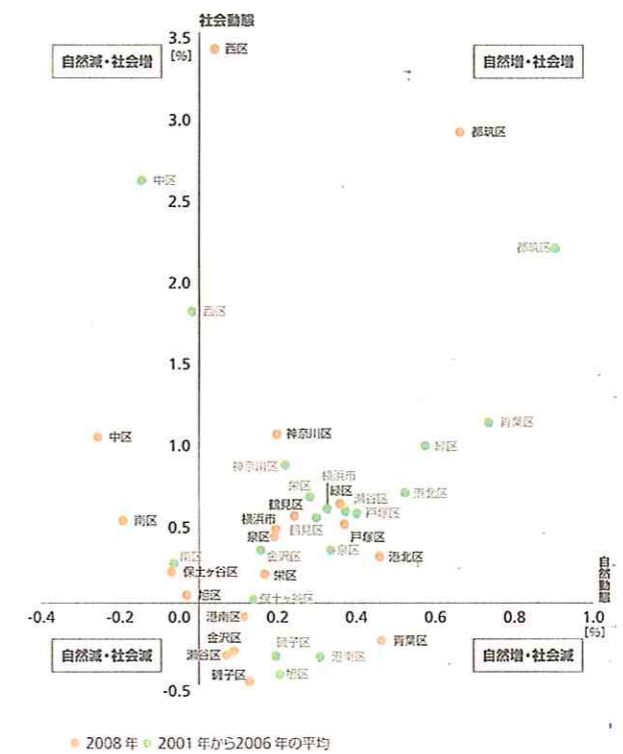


図4-6 | 若年層の流出と高齢者の増加の重なり合った地域

